

「子どもに伝えたい話」

構成・出演 澤田修 協力 喜多方プラザ・石風社

参考文献 「福島のむかし話」(株)日本標準 「山田登志美の語り」NPO 語りと方言の会



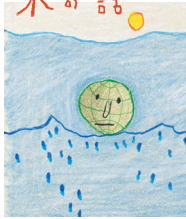
PART1

火の話



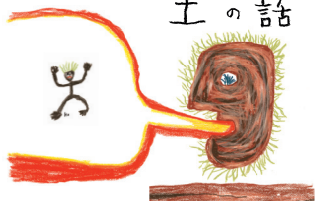
「火の話」作・黒田征太郎 絵・黒田征太郎

水の話



「水の話」作・近藤等則 絵・黒田征太郎

土の話



「土の話」作・小泉武夫 絵・黒田征太郎

PART2



-団体紹介-

劇団風の子東北は1993年から福島県喜多方市に拠点を置き、主に東北地方、新潟県を中心に小形作品で小学校や幼稚園・保育園、子ども劇場での公演活動を展開してきました。山と緑に囲まれた自然豊かな土地で作品作りの素材や魅力あふれる人たちの力を借りて地域色豊かな作品を創り続けています。

<制作にあたって>

2011年東日本大震災が発生し、その後、東京電力福島第一原子力発電所の事故により多くの人が住みなれた故郷と離れなければいけなくなりました。子どもの時から慣れ親しんだ風景や祭りや住居、学校、商店そして家族が離ればなれになったり、仲の良い友達とも別れなければならなかったのです。人間は、衣・食・住が足りると他人とおしゃべりしたり、笑ったり、歌ったりいっしょに何かをつくったり、食事をしたりする事を望みます。そして自分のアイデンティティを問うのです。ばらばらになってしまった人達が心をひとつにする時、祭りや歌や踊りそして、ふるさとの話、方言などはとても必要な文化なのです。この文化は、その土地、その土地に伝わり、祖父母から父母へそして子ども達へと伝わり、脈々と継承されていくのです。福島のむかし話は、生きていく上で大事な事や伝統そしてみんなで大笑いするような。人間にとってとても豊かな生活や教訓を伝えていくのです。地方の豊かさこそ今の時代にとっても貴重で必要なものなのです。